日汉对照世界名著丛书

茶花

椿 つばき

姬 ひめ

小仲马 著

吉林大学出版社

H369.4
X22

日汉对照世界名著丛书

茶花女

原　　著　小仲马　　日文翻译　吉村正一郎
中文翻译　王振孙　　编　　校　刘树仁

吉林大学出版社

日汉对照世界名著丛书
茶 花 女
原　　著　小仲马　　日文翻译　吉村正一郎
中文翻译　王振孙　　编　　校　刘树仁

责任编辑、责任校对：张显吉　　封面设计：张沭沉

吉林大学出版社出版　　吉林大学出版社发行
（长春市东中华路 37 号）　　吉林农业大学印刷厂印刷

开本：850×1168 毫米　1/32　　1998 年 6 月第 1 版
印张：10　插页：2　　1998 年 6 月第 1 次印刷
字数：373 千字　　印数：1—6 000 册

ISBN 7—5601—2127—6/I·101　　定价：14.00 元

出版者的话

为了提高日语学习者的阅读能力和兴趣，加深对日本语言文化的理解，我们邀请了吉林大学部分日语专家和学者编写了日汉对照世界名著丛书（全译本）第一辑。

本辑所选世界名著，日文采用日本最著名版本（《雪国·伊豆舞女》为日文原作，《简爱》、《茶花女》、《少年维特的烦恼》为日文精典译作），中文采用译林出版社译本，均出自我国著名翻译家之手。因此，所选版本具有权威性。

丛书采用同面相对的日汉对照方式，即日文原文与相应的中文同面对应，这样便于读者参照阅读，在两种语言环境中体会世界名著的魅力。

丛书充分考虑到了日文和中文的不同阅读习惯，在版面安排上，日文纵排，中文横排；日文排在上，中文排在下，既相互对应，又独立成文。使用文字字体也均采用日文和中文的通用字体，印刷上色调略有差别。为了达到同面相对的目的，丛书每面的中文字距和行距略有调整，用两个空格代替分段回行。既保持了日文的完整性，又保持了中文的文学艺术性。

本辑的出版，得到了日本岩波书店、日本在华日语专家东海林健先生、吉林大学外语学院的部分专家以及江苏译林出版社竺祖慈先生等的支持和帮助，在此一并表示深深地谢意。同时，由于我们的水平和力量所限，不足之处再所难免，敬请读者不吝赐教。

吉林大学出版社

1998 年 5 月

1 赤毛女 第一章

一

小説中の人物を作りだすには、何よりもまず、人間というものを十分研究してかからなくてはならない、というのが私の意見である。あたかもそれは、どんな国の言葉でも、本気に学習してからでなくては話せないようなものだ。

私はまだ創意を示すほどの年配でもないのだから、あまんじてただ単に事実を物語るというだけにとどめよう。

で、私は、この物語が事実ほんとうにあったことで、女主人公を除けば、登場人物はことごとく現存しているということを読者に信じていただきたいと思う。

その上パリには、私がこの本の中に書き集めるさまざまな出来事について、その大半を現場に居合わせた幾人かの人たちがある。だからもし、この話がほんとうだという私の言葉が不十分なら、その連中に証人になってもらってもいいのだ。ただある特別の事情で、それらの出来事を書きしるすことのできるのは私ひとりきりであった。それというのは、一部始終をこまごまとした事がらまですっかり打ち明けられたのは私だけで、一切のいきさつを知らなくては、興味もあり、かつ、まとまった一編の物語を作ることはとてもできないからである。

さて、そのいきさつをこと細かにどうして私が知るようになったか、その次第をお話ししよう。

一

我认为只有在深入地研究了人以后，才能创造人物，就像要讲一种语言就得先认真学习这种语言一样。　既然我还没到能够创造的年龄，那就只好满足于平铺直叙了。　因此，我请读者相信这个故事的真实性，故事中所有的人物，除女主人公以外，至今尚在人世。　此外，我记录在这里的大部分事实，在巴黎还有其他的见证人；如果光靠我说还不足为凭的话，他们也可以为我出面证实。由于一种特殊的机缘，只有我才能把这个故事写出来，因为唯独我洞悉这件事情的始末，除了我谁也不可能写出一篇完整、动人的故事来。

下面就来讲讲我是怎样知道这些情节的。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

一八四七年の三月十二日、私はラフィット町で、家具類や立派な骨董なぞの売り立てをやるという、大きな黄色いポスターを見かけた。売り立ては持ち主が物故したためであった。ポスターには故人の名は書いてなかったが、売り立ては十六日正午から五時まで、アンタン町九番地で行なわれることになっていた。

ポスターにはそのほか、十三日と十四日には同家で家具の下見をさせると書いてあった。

骨董といえば私は日ごろ好きな道でもあり、こんな機会はぜひとも逃がさないようにしようと心に決めた。買わないまでも、せめて見るだけでもと思ったのである。

その翌日、私はアンタン町九番地へ出かけた。

時刻はまだ早かったのだが、それでももうその家には、男の、それに女のお客までおおぜいきていた。婦人たちはびろうどのきものを着たり、カシミヤ織りのショールをしたり、瀟洒な馬車を門口に待たせたりしている身でありながら、眼の前に並べられた栄華のさまを驚きの表情に感嘆の色さえうかべてながめていた。

やがて私はそうした驚きと感嘆のわけを、なるほどと思った。というのは、自分自身よくよく見れば、自分がいま、おかこいものの住居にいることにたやすく気がついたからである。ところで、もし社交界の婦人たち——きょうここへきているのは社交界の婦人連なのだ——の見たがっているものが一つあるとすれば、それはこの種の女の内幕である。この種の女たちの馬車は毎日、彼女たちの馬車に泥水を跳ね上げるし、オペラ座やイタリア劇場では同じように肩を並べて座席をとっているし、それからまたパリの市中では、きりょうと装身具といかがわしいうわさとでもって、えらそうな顔をして豪奢を見せびらかしているのだ。

一八四七年三月十二日,我在拉菲特街看到一张黄色的巨幅广告,广告宣称将拍卖家具和大量珍玩。这次拍卖是在物主死后举行的。广告上没有提到死者的姓名,只是说拍卖将于十六日中午十二点到下午五点在昂坦街九号举行。　广告上还附带通知,大家可以在十三日和十四日两天参观住宅和家具。　我向来是个珍玩爱好者。我心想,这一回可不能坐失良机,即使不买,也要去看看。　第二天,我就到昂坦街九号去了。

时间还早,可是房子里已经有参观的人了,甚至还有女人。虽然这些女宾穿的是天鹅绒服装,披的是开司米披肩,大门口还有华丽的四轮轿式马车在恭候,却都带着惊讶、甚至赞赏的眼神注视着展现在她们眼前的豪华陈设。　不久,我就懂得了她们赞赏和惊讶的原因了。我也向四周打量了一番,很快就看出了我正置身于一个高级妓女的房间里。然而上流社会的女人——这里正有一些上流社会的女人——想看看的也就是这种女人的闺房。这种女人的穿着打扮往往使这些贵妇人相形见绌;这种女人在大歌剧院和意大利人歌剧院里,也像她们一样,拥有自己的包厢,并且就和她们并肩而坐;这种女人恬不知耻地在巴黎街头卖弄她们的姿色,炫耀她们的珠宝,播扬她们的“风流韵事”。

3 妖婦の家 第一章

いま私がいるこの家の女主人はもはや亡き人であった。してみれば、ごくお堅い婦人がたにしたって、この女の居間に足を踏み入れるのになんの遠慮もいらないわけである。死というものがこのきらびやかな、けがらわしい場所の空気をきよめてしまっているし、おまけに彼女たちはどんな人のうちへ行くのかも知らずに、ただ競売があるからきたのだという申し訳も必要とあらばできもしよう。ポスターを見て、目録の品物が見たくて下見にきたのよ、と言ってしまえば、それっきりの話である。そう言い訳をしたからとて、彼女たちがかねがね風変わりなものに聞き伝えているはずの、こういうおかしいものの生活のなごりを、さまざまな豪奢な品物のあいだにもの珍しく捜さなかったというのではない。

ところでおあいにくさまだが、この家の秘密は女神とともに亡くなってしまっていた。ご婦人がたがいくら鵜の目鷹の目になってみたところで、この家の女主人が物故したから売るというものをつまりは見ただけで、女が生前なにを売っていたか、それを探りだすことはできなかった。

それはまずそれとして、買いたいものはたくさんあった。家具家財はすばらしいものだった。薔薇材やブール*ものの家具、セーヴル*焼きや中国渡来の花瓶、サクス*出来の人形、繻子、びろうど、レースなど、何から何まで申し分なくそろっていた。

私は家の中をあちらこちら歩き回り、もの好きな先客の貴婦人連中のあとについて行った。彼女たちがペルシア布の壁掛けをした一室に入ったので、つづいてはいろうとすると、彼女たちはこと新しくそんな好奇心を起こしたのを恥じらうかのように、微笑をうかべながらそそくさと出てきた。それでいっそう、私はこの部屋に足を踏み入れてみたくなった。そこは化粧部屋で、こまごました装身具が部屋いちめんに並べてあったが、そういう品物にこそ、死んだ女の栄華のさ

这个住宅里的妓女已经死了,因此现在连最最贞洁的女人都可以进入她的卧室。死亡已经净化了这个富丽而淫秽的场所的空气。再说,如果有必要,她们可以推托是为了拍卖才来的,根本不知道这是什么样的人家。她们看到了广告,想来见识一下广告上介绍的东西,预先挑选一番,没有比这更平常的事了;而这并不妨碍她们从这一切精致的陈设里面去探索这个妓女的生活痕迹。她们想必早就听到过一些有关妓女的非常离奇的故事。　不幸的是,那些神秘的事情已经随着这个绝代佳人一起消逝了。不管这些贵妇人心里的期望有多大,她们也只能对着死者身后要拍卖的东西啧啧称羡,却一点也看不出这个女房客在世时所操的神女生涯的痕迹。　不过,可以买的东西还真不少。房间陈设富丽堂皇,布尔雕刻的玫瑰木家具、塞弗尔和中国的花瓶、萨克森的小塑像、绸缎、天鹅绒和花边绣品;真是目不暇接,应有尽有。　我跟着那些比我先来的好奇的名媛淑女在住宅里漫步溜达。她们走进了一间张挂着波斯帷幕的房间,我正要跟着进去的当儿,她们却几乎马上笑着退了出来,仿佛对这次新的猎奇感到害臊,我倒反而更想进去看个究竟。原来这是一个梳妆间,里面摆满各种精致的梳妆用品,从这些用品里似乎可以看出死者生前的穷奢极侈。

まが一ばんよく現われているように思われた。

壁ぎわに片寄せられた幅三尺、長さ六尺の大きなテーブルの上には、オーコックやオディオ*の数々の金銀宝石類が燦然と輝いていた。ずいぶんとすばらしいものばかり集めたものである。この家の主人のような女にとって、こういうものは装身具としてぜひとも必要なのだが、数知れずあるおびただしい品物の一つとして金銀ならぬものとてはなかった。けれども、これらの品々はぼつぼつ集められたので、同じ一人のひとの世話になるだけでは、何から何までとてもこうまでそろえられるものではない。

お妾さんの化粧部屋を見たからとて格別驚く私でもないが、その部屋にあるこまごまとした品物は何によらず、念入りに見てみるのはおもしろかった。ところが見事な彫りのある調度品にはすべて、さまざまな頭文字や、異なった定紋がついているのに気がついた。

私はこれらの品をつくづくながめわたした。どれもこれも哀れな女の賤業をしのばせるよすがである。そして私は人知れず神の慈悲をおもった。なぜなら、神はこの女を普通のこらしめの時まで生きながらえさせず、彼女たちにとっては第一の死ともいうべきあの老齢に達せぬうちに、栄華と美しさのさなかで死なせたもうたからである。

実際、身をもちくずしてきた老人の成れの果てを見るほど、もの哀れなものがまたとあろうか。それが女であればなおさらのこと、気品はさらになくなって、もうだれひとり眼をつけてくれるものもない。自分がよこしまな道を踏んできたことは棚へ上げて、ただ世渡りが下手で、むだに金を使ってきたことばかりいつまでもくよくよしているのは、世にも哀れをとどめるものの一つである。

靠墙放着一张三尺宽、六尺长的大桌子，奥科克和奥迪奥制造的各种各样的珍宝在桌子上闪闪发光，真是琳琅满目，美不胜收。这上千件小玩意儿对于我们来参观的这家女主人来说，是梳妆打扮的必备之物，而且没有一件不是用黄金或者白银制成的。然而这一大堆物品只能是逐件收罗起来的，而且也不可能是某个情夫一人所能办齐的。　我看到了一个妓女的梳妆间倒没有厌恶的心情，不管是什么东西，我都饶有兴趣地细细鉴赏一番。我发现所有这些雕刻精湛的用具上都镌刻着各种不同的人名首字母和五花八门的纹章标记。　我瞧着所有这些东西，每一件都使我联想到那个可怜的姑娘的一次肉体买卖。我心想，天主对她尚算仁慈，没有让她遭受通常的那种惩罚，而是让她在晚年之前，带着她那花容月貌，死在穷奢极侈的豪华生活之中。对这些妓女来说，衰老就是她们的第一次死亡。　的确，还有什么比放荡生活的晚年——尤其是女人的放荡生活的晚年——更悲惨的呢？这种晚年没有一点点尊严，引不起别人丝毫同情，这种抱恨终生的心情是我们所能听到的最悲惨的事情，因为她们并不是追悔过去的失足，而是悔恨错打了算盘，滥用了金钱。

5 娘

私は昔粋な暮らしをしていたある婆さんを知っていた。この婆さんには一人の娘のほかには、そのかみのなごりは何一つ残っていなかったが、婆さんと同時代の人々の話によると、娘はその母親の若いころに優るとも劣らぬきりょうよしだという評判だった。このかわいそうな娘はルイズという名であったが、母親は自分が娘を育てたように、自分の老後を娘に養わせようという場合でなくてはただの一度だって「お前は私の娘だ。」とは言わなかった。そして娘は母親の言いつけのままに、意思もなく、情熱もなく、楽しみもなく、身をまかせていた。もしだれかが親切気をだして身についた仕事の一つもおぼえさせてやったなら、娘はそれをばやっていただろうのに。

日ごろ目にするのはふしだらなことばかりで、年歯も行かぬうちから身をもちくずしている上に、しょっちゅうどこかしらが悪いといったあんばいでは、神が与えたもうた善悪のわきまえさえなくなってしまったが、だれひとりそれをよく導いてやろうとするものもなかった。

私はほとんど毎日のように、同じ時刻に大通りを通っていたあの娘をいつまでも思い出すことであろう。母親がいつもついて歩いていた。その熱心さだけは、いかにも実の母親がわが娘に付き添っているというふうであった。当時は私もまだ若かったし、人並みに道楽の下地はなかったのではないが、娘に気はありながらも、この恥知らずな監督ぶりを見ると、たちまち軽蔑と嫌悪の情を感じたのを思い出す。

さらに付け加えれば、どんなに清純な娘の顔にも、これほどあどけない感じと、もの憂げな苦痛の表情は見あたるものではない。

それはいわば《あきらめ》のすがたであった。

ある日、この娘の顔が明るく輝いた。母親のさしずどおり賤しい稼業をつづけているあいだに、

第一章

我认识一位曾经风流一时的老妇人，过去生活遗留给她的只有一个女儿。据她同时代的人说，她女儿几乎同她母亲年轻时长得一样美丽。她母亲从来没对这可怜的孩子说过一句“你是我的女儿”，只是要她养老，就像她自己曾经把她从小养到大一样。这个可怜的小姑娘名叫路易丝。她违心地顺从母亲的旨意，既无情欲又无乐趣地委身于人，就像是有人想要她去学一种职业，她就去从事这种职业一样。　长时期来耳濡目染的都是荒淫无耻的堕落生活，而且是从早年就开始了的堕落生活，加上这女孩长期以来孱弱多病，抑制了她脑子里分辨是非的才智，这种才智天主可能也曾赋予她，但是从来没有人想到过要去让它得到施展。　我永远也忘不了这个年轻的姑娘，她每天几乎总是在同一时刻走过大街。她的母亲每时每刻都陪着她，就像一个真正的母亲陪伴她真正的女儿那般形影不离。那时候我还年轻，很容易沾染上那个时代道德观念淡薄的社会风尚，但是我还记得，一看到这种丑恶的监视行为，我就从心底里感到轻蔑和厌恶。　没有一张处女的脸上会流露出这样一种天真无邪的感情和这样一种忧郁苦恼的表情。　这张脸就像委屈女郎的头像一样。　一天，这个姑娘的脸突然变得容光焕发。在她母亲替她一手安排的堕落生涯里，

神はこの罪の女にも一つの幸福をお許しになったものとみえる。娘を力ないものにお作りになった神様だとて、何一つ慰めも与えずに、いつまでもうっちゃってお置きになるはずもなかろうではないか。で、ある日、娘は身重になったことに気づいたのである。娘にはまだうれしさにぞくぞくするような純真さが残っていた。人間の魂には不思議な避難所があるものだ。ルイズはうれしさのあまり、このことをさっそく母親に知らせようと思って駆けつけた。こんなことは口にするさえそもそも恥ずべきなのだが、作者はおもしろ半分不道徳なことを書くわけではなく、一つの事実を物語るにすぎないのである。世間ではこの種の女になんの思いやりもなく、頭から悪く言ったり、よく判断もせずに軽蔑したりしているのだが、作者がもしかりに、こういう女たちの苦悩の真相を時たま公にする必要があると信じなければ、むしろ何事も語らないほうがましであろう。で、言うも恥ずかしい話だが、母親は娘に答えた。二人だけでも楽じゃないのに、三人になっておまんまがいただけるものか。それに、そんな子供なんかいりもしないし、おなかなんかふくれていた日にはしょうばいは上がったりじゃないか、と。

翌日、ある産婆——母親の友達とだけ書いておく——がルイズを見舞にきた。ルイズはそれから二、三日床にふせっていた。そして起き出してきた時には、前よりもいっそう青ざめて弱々しくなっていた。

それから三か月たって、娘を不憫に思ったさる男が、精神的にも肉体的にもよくしてやろうとしてみたが、よほどひどくからだにこたえたものとみえ、ルイズは自分のうけた堕胎の手術の結果死んでしまった。

母親のほうはいまもまだ生きている。なぜであろう。そんなことは神様しかご存じあるまい。

天主似乎赐给了这个女罪人一点幸福。毕竟，天主已经赋予了她懦弱的性格，那么在她承受痛苦生活的重压的时候，为什么就不能给她一点安慰呢？这一天，她发觉自己怀孕了，她身上还残存的那么一点纯洁的思想，使她开心得全身哆嗦。人的灵魂有它不可理解的寄托。路易丝急忙去把那个使她欣喜若狂的发现告诉她母亲。说起来也使人感到羞耻。但是，我们并不是在这里随意编造什么风流韵事，而是在讲一件真人真事。这种事，如果我们认为没有必要经常把这些女人的苦难公诸于世，那也许还是索性闭口不谈为好。人们谴责这种女人而又不听她们的申诉，人们蔑视她们而又不公正地评价她们，我们说这是可耻的。可是那位母亲答复女儿说，她们两个人生活已经不容易了，三个人的日子就更难过了；再说，这样的孩子还是没有的好，而且大着肚子不做买卖也是浪费时间。　第二天，有一位助产婆——我们姑且把她当作那位母亲的一个朋友——来看望路易丝。路易丝在床上躺了几天，后来下床了，但脸色比过去更苍白，身体比过去更虚弱。　三个月以后，有一个男人出于怜悯，设法医治她身心的创伤，但是那次的打击太厉害了，路易丝终究还是因为流产的后遗症而死了。　那母亲仍旧活着，生活得怎么样？天知道！

7 赤い女 第一章

銀の器具類に見入りながら、私はこんな話を心に思いうかべていた。あれこれと考えているうちに、どうやらかなり時間がたったらしい。家の中には私と番人のほかにもうだれもいなかったからである。番人は私が何か盗んで行きはしまいかと、扉口のところからじっと眼を注いでいるのであった。

私はそんなにまで気をもませたその人のよさそうな男のそばへ近づいた。

「ちょっとおたずねしますが、」と私は言った。「ここに住んでおられた方はなんとおっしゃるんでしょうか。」

「マルグリット・ゴーチエさまでございます。」

そんな女の名は承知してもいたし、姿を見かけたこともあった。

「へえ、」と、私は番人に言った。「マルグリット・ゴーチエが亡くなったんだって。」

「さようでございます。」

「いつのことです、そりゃ。」

「三週間ばかり前だと思いますが。」

「では、どうしてうちの中を見せるんだね。」

「債権者の方々のお考えでは、こうすれば売り立ての時にいい値がつきますからね。織り物や家具の値打ちを前もって御覧に入れておけば、お客様がたのほうでも自然買ってみようかという気におなりになるじゃございませんか。」

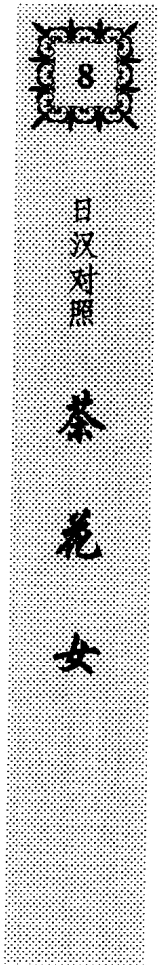
「じゃあ、借金があったんだね。」

「そりゃ且那、うんとございましたよ。」

当我凝视着这些金银器皿的时候，这个故事就浮现在我的脑海之中。时光似乎随着我的沉思默想已悄然逝去，屋子里只剩下我和一个看守人，他正站在门口严密地监视着我是不是在偷东西。　我走到这位看守人跟前，他已被我搞得心神不定了。　“先生，”我对他说，“您可以把原来住在这里的房客的姓名告诉我吗?”　“玛格丽特·戈蒂埃小姐。”　我知道这位姑娘的名字，也见到过她。　“怎么!”我对看守人说，“玛格丽特·戈蒂埃死了吗?”“是呀，先生。”　“什么时候死的?”　“有三个星期了吧。”　“那为什么让人来参观她的住宅呢?”　“债权人认为这样做可以抬高价钱。您知道，让大家预先看看这些织物和家具，这样可以招徕顾客。”　“那么说，她还欠着债?”　“哦，先生，她欠了好多哪!”

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

「だけど、競売をやればむろんうまるでしょうな。」
「うまるどころか、余ってかえりますよ。」
「すると、その余ったやつはだれのふところへ入るんだろう。」
「遺族にでございます。」
「遺族があるの。」
「そうらしゅうございますよ。」
「いや、いろいろどうも。」
番人は私の意図がわかって安心したとみえ、挨拶を返した。私は外に出た。
——かわいそうな女だ！ 家へ帰る道々私はそう思った。あの女はさだめし哀れな死に方をしたに違いない。あの社会では、からだが達者でなければ世話をしてくれる男はないのだから。そうして私は、マルグリット・ゴーチエの運命についてわれ知らずあわれを催したのであった。
こんなことをいえば、何をばかなとわらう諸君も多かろうが、私はこういう社会の女に対してきわめて寛大な気持ちをもっているのだ。この気持ちがどんなものか、わざわざここで議論するまでもあるまい。
ある日、府庁へ旅券をもらいに行く途中、私は近くの通りで、一人の街の女が巡査二人に引っぱられて行くのを見た。その女が何をしたのかは知らないが、自分が巡査に捕まったばかりに、生まれて何か月かの赤ん坊といやおうなしに別れねばならなくなり、赤ん坊に接吻しながら、熱い涙を流していたということだけは確かである。その日以来、私は一目見ただけで女を軽蔑するような、これまでのようなことはできなくなった。



“卖下来的钱大概可以付清了吧?” “还有得剩。” “那么，剩下来的钱给谁呢?” “给她家属。” “她还有家?” “好像有。” “谢谢您，先生。” 看守人摸清了我的来意后感到放心了，对我行了一个礼，我就走了出来。 “可怜的姑娘!”我在回家的时候心里想，“她一定死得很惨，因为在她这种生活圈子里，只有身体健康才会有朋友。”我不由自主地对玛格丽特的命运产生了怜悯的心情。 很多人对此可能会觉得可笑，但是我对烟花女子总是无限宽容的，甚至也不想为这种宽容态度与人争辩。 一天，在我去警察局领取护照的时候，瞥见邻街有两个警察要押走一个姑娘。我不知道这个姑娘犯了什么罪，只见她痛哭流涕地抱着一个才几个月大的孩子亲吻，因为她被捕后，母子就要骨肉分离。从这一天起，我就再也不轻易地蔑视一个女人了。

二

競売は十六日であった。

下見と競売とのあいだに中一日おいたのは、室内装飾人たちが壁掛けや、カーテンや、そのほかいろいろなものを取りはずすためであった。

当時私は旅行から帰ってきたばかりであったが、マルグリットの死んだことはだれからも聞かなかった。これほどの大した評判なら、いったいうわさの都、パリに帰ってくれば、友達からでも聞くのがあたりまえなのだが、私が何も聞かなかったというのも不思議ではない。マルグリットは美しかった。けれどこういう女は、生きているあいだ世間で評判になればなるほど、死んでしまえばもう火の消えたようなものなのだ。それはあたかも昇る時と同じように、輝きもなく沈んで行く太陽にも似ている。パリでは、名の知れた女の情人たちは大抵みんなお互いに親しくしているから、女が若くて死ねば、死んだことは全部の男たちに同時に知れ渡ってしまう。その当座こそ、思い出話の二つや三つは取りかわされもしようが、やがて男たちはそんな出来事で涙一つこぼすでもなく、相変わらず思い思いの生活をつづけて行くのだ。

今日では、人間、二十五歳にもなれば涙を流すようなことはいたってまれで、だれかれかまわずおいそれとそんなことをするはずもない。たかだか両親が子供に泣いてもらうくらいなものだが、それさえも、それだけのことはしておいてやらねばならぬ。

ところで私は、自分の頭文字の組み合わせがマルグリットの手回りの品についていたわけでは

二

拍卖定于十六日举行。　在参观和拍卖之间有一天空隙时间，这是留给地毯商拆卸帷幔、壁毯等墙上饰物用的。　那时候，我正好从外地旅游归来。当一个人回到消息灵通的首都时，别人总是要告诉他一些重要新闻的。但是没有人把玛格丽特的去世当作什么大事情来对我讲，这也是很自然的。玛格丽特长得很漂亮，但是，这些女人生前考究的生活越是闹得满城风雨，她们死后也就越是无声无息。她们就像某些星辰，陨落时和初升时一样黯淡无光。如果她们年纪轻轻就死了，那么她们所有的情人都会同时得到消息；因为在巴黎，一位名妓的所有情人彼此几乎都是密友。大家会相互回忆几件有关她过去的逸事，然后各人将依然故我，丝毫不受这事的影响，甚至谁也不会因此而掉一滴眼泪。　如今，人们到了二十五岁这年纪，眼泪就变得非常珍贵，决不能轻易乱流，充其量只对为他们花费过金钱的双亲才哭上几声，作为对过去为他们破费的报答。　而我呢，虽然玛格丽特任何一件用品上都没有我姓名的开头字母，

ないが、今しがた人間的な思いやりとあわれみの心から、そうまで考え込むには当たらないほど、彼女の死について長く考えさせられたのであった。

私はシャン・ゼリゼでよくマルグリットに遇ったことを思い出した。彼女は毎日欠かさず、たくましい二頭の鹿毛の馬に引かせた小型の青い箱馬車に乗ってやってきたものだ。そしてまた彼女には、そういうたぐいの女にはあまり見かけないような、一種の気品がそなわっていたことを思い出す。それは比類のない美しさをさらにいっそう引き立てるような気品であった。

こういうあわれむべき女たちが外出する時には、いつもきっとだれかしらが一緒についている。世の中には、こういう女と一緒に歩いて、内緒のいろごとを大っぴらにふれ回ってもいいと思うような男はいないし、さればと言って、ひとりぼっちもやりきれないしするので、自分たちよりも生活がおもしろくなく、自家用の馬車もない女だとか、昔は粋で鳴らしたものだが今はもうすっかり尾羽うち枯らした女だとかを連れて行く。そこで何事によらず当のご本尊のことが詳しく知りたければ、こういう女をつかまえて、だれだって遠慮なく話しかければいいというわけである。

マルグリットはしかしそうではなかった。彼女がシャン・ゼリゼへくる時はいつもひとりで、冬はカシミヤの大きなショールにくるまり、夏はごくあっさりとした衣装で、できるだけ人目をさけて、つつましやかに馬車に乗っていた。好きな散歩の途中知った人にたくさん行きあうのだが、微笑を送って会釈するのはほんの時たまで、それも侯爵夫人なぞのするような、当の相手にしかそれとわからない微笑であった。

彼女は仲間の女たちがみな今も昔もするように、円形広場*からシャン・ゼリゼの入り口あたり

可是我刚才承认过的那种出于本能的宽容和那种天生的怜悯，使我对她的死久久不能忘怀，虽说她也许并不值得我如此想念。　记得我过去经常在香榭丽舍大街遇到玛格丽特，她坐着一辆由两匹栗色骏马驾着的蓝色四轮轿式小马车，每天一准来到那儿。她身上有一种不同于她那一类人的气质，而她那风致韵绝的姿色，又更衬托出了这种气质的与众不同。　这些不幸的人儿出门的时候，身边总是有个什么人陪着的。

因为没有一个男人愿意把他们和这种女人的暧昧关系公开化，而她们又不堪寂寞，因此总是随身带着女伴。这些陪客有些是因为境况不如她们，自己没有车子；有些是怎么打扮也好看不了的老妇人。如果有人要想知道她们陪同的那位马车女主人的任何私情秘事，那么尽可以放心大胆地向她们去请教。　玛格丽特却不落窠臼，她总是独个儿坐车到香榭丽舍大街去，尽量不招人注意。她冬天裹着一条开司米大披肩，夏天穿着十分淡雅的长裙。在这条她喜欢散步的大道上尽管有很多熟人，她偶尔也对他们微微一笑，但这是一种只有公爵夫人才有的微笑，而且也唯有他们自己才能觉察。

她也不像她所有的那些同行一样，习惯在圆形广场和香榭丽舍大街街口间散步，

までをぶらつくようなまねはしなかった。彼女は森までまっしぐらに馬を駆けさせた。ここで馬車を降りて、一時間ばかり付近を散歩すると、再び馬車に乗り、二頭の馬を大急ぎに急がせて家に帰るのであった。

自分が時々目撃したこうした情景が、一つ残らず眼前に彷彿した。そして、見事な美術品が粉みじんにこわれたのを愛惜するような気持ちで、私はこの女の死を惜しんだのである。

それにしても、マルグリット以上に魅力のある美人は見たくても見られるものではない。

あまり背が高くて、細っそりしすぎたきらいはあったが、彼女はちょっとしたきものの着こなし方で、生まれつきの欠点を巧みに隠すすべをいかにもよく心得ていた。はじが地に触れるようなカシミヤのショールが左右から絹の衣裳の裾飾りをのぞかせ、両手を隠して胸のあたりにあてた厚い暖手套には、器用な手でまわりにひだがとってある。その姿はどんな文句の多い人に見せても一点非の打ちどころはなかった。

顔の格好はといえば、まったく惚れぼれするようで、一種独特の魅力があった。ごく小さくて、ミュッセ*の流儀でいえば、彼女の母親がわざわざそんなふうにしようと思って念入りにこしらえたのかと思われる。

言葉では言いつくせぬ優雅な卵なりの顔に、黒い二つの目を入れ、その上に絵のようにきよらかな弓形の眉を引いて見たまえ。この眼をおおう長いまつげは伏し目になれば薔薇色の頬に影を落とす。それから上品で、筋の通った才媛らしい鼻。その鼻孔は淫蕩な生活への激しいあこがれにすこしばかりふくらんでいる。口もとは形よく整っていて、口びるがしとやかにほころびると、牛乳のようにまっ白な歯並みがのぞく。そして最後に、だれもまだ手を触れない桃を包んでいる

她的两匹马飞快地把她拉到郊外的布洛涅树林，她在那里下车，漫步一个小时，然后重新登上马车，疾驰回家。　所有这些我亲眼目睹的情景至今还历历在目，我很惋惜这位姑娘的早逝，就像人们惋惜一件精美的艺术品被毁掉了一样。　的确，玛格丽特可真是个绝色女子。　她身材颀长苗条稍许过了点分，可她有一种非凡的才能，只要在穿着上稍稍花些功夫，就把这种造化的疏忽给掩饰过去了。她披着长可及地的开司米大披肩，两边露出绸子长裙的宽阔的镶边，她那紧贴在胸前藏手用的厚厚的暖手笼四周的褶裥都做得十分精巧，因此无论用什么挑剔的眼光来看，线条都是无可指摘的。　她的头样很美，是一件绝妙的珍品，它长得小巧玲珑，就像缪塞所说的那样，她母亲好像是有意让它生得这么小巧，以便把它精心雕琢一番。　在一张流露着难以描绘其风韵的鹅蛋脸上，嵌着两只乌黑的大眼睛，上面两道弯弯细长的眉毛，纯净得犹如人工画就的一般，眼睛上盖着浓密的睫毛，当眼帘低垂时，给玫瑰色的脸颊投去一抹淡淡的阴影；细巧而挺直的鼻子透出股灵气，鼻翼微鼓，像是对情欲生活的强烈渴望；一张端正的小嘴轮廓分明，柔唇微启，露出一口洁白如奶的牙齿；皮肤颜色就像未经过人手触摸过的蜜桃上的绒衣；

あのびろうどのような細かな毛で肌を色どる——と、まずこういえば、読者はそのかわいらしい顔かたちをおおよそ想像することができよう。

黒玉のような漆黒の頭髪は、自然のままかそれともわざとそうさせたのか波打っていて、額の上で大きく二つにわかれて後ろにたれ下がり、そのあいだからのぞいている耳の端には、どちらも四、五千フランはするダイヤが二つきらめいていた。

あんな情熱的な生活を送っていながら、マルグリットの顔にどうしてまた、処女のような、むしろほかの女に見られない子供っぽい表情が残っていたのであろうか。そのわけはわからないけれど、なにがさてそればかりは事実として認めないわけにはいかないのだ。

マルグリットはヴィダル*の筆になる見事な自分の肖像画を一枚もっていた。この人こそは彼女の面影を生き写しできるただ一人の画家である。マルグリットが死んでから、私はこの肖像画を二、三日のあいだ心ゆくまでながめることができたが、見れば見るほど驚くばかり生き写しなので、私の記憶がどうやら薄れていそうなところは、この画のおかげでいろいろ思い出したものである。

この章の中のこまごまとした事がらはあとになってわかったこともあるのだが、この女の身上話を始める際にあと戻りするようなことになってはいけないから、さっそくいま書いておく。

マルグリットは新作の狂言がかかると欠かさず顔を出した。そして毎晩、劇場や踊り場で夜をふかした。新作のだしものの時にはきっと彼女の姿が見え、そして平場のその桟敷の前にはいつもきまって三つの品が並んでいた。観劇眼鏡とボンボンの袋と椿の花束とである。

月の二十五日間はその椿の花は白く、あと五日間は紅であった。どうしてそんなふうに色をと

12

日汉对照

茶花女

这些就是这张美丽的脸蛋给您的大致印象。　黑玉色的头发,不知是天然的还是梳理成的,像波浪一样地鬈曲着,在额前分梳成两大绺,一直拖到脑后,露出两个耳垂,耳垂上闪烁着两颗各值四五千法郎的钻石耳环。　玛格丽特过着热情纵欲的生活,但是她的脸上却呈现出处女般的神态,甚至还带着稚气的特征,这真使我们百思而不得其解。　玛格丽特有一幅她自己的画像,是维达尔的杰作,也唯有他的画笔才能把玛格丽特画得如此惟妙惟肖。在她去世以后,有几天,这幅画在我手里。这幅画画得跟真人一样,它弥补了我记忆力的不足。　这一章里叙述的情节,有些是我后来才知道的,不过我现在就写下来,免得以后开始讲述这个女人的故事时再去重新提起。　每逢首场演出,玛格丽特必定光临。每天晚上,她都在剧场里或舞会上度过。只要有新剧本上演,准可以在剧场里看到她。她随身总带着三件东西:一架望远镜、一袋蜜饯和一束茶花,而且总是放在底层包厢的前栏上。　一个月里有二十五天玛格丽特带的茶花是白的,而另外五天带的茶花却是红的,

り変えるのかだれにもわからなかった。私とても実は書きながらそのわけは説明できない。この花の一件には、彼女が一ばんよく行った劇場の常連や、彼女の情人たちも私と同じように気づいていたのであった。

マルグリットといえばきっと椿の花で、それ以外の花をついぞ見かけたものはなかった。それで、彼女の行きつけの花屋、バルジョンのおかみさんの店でとうとう《椿姫》というあだ名を付けられるようになり、これがそのまま世間の通り名となった。

そのほか私はパリにおけるある社会のすべての人たちと同じように、マルグリットが飛びきりハイカラな青年たちの情人だったことを知っていた。彼女もそれを公然と言うし、男たちのほうでも得意になっていたところから察すると、双方でお互いに満足していたものにちがいない。

しかるに三年ばかり前、バニュール*の旅から帰ってきてからというもの、彼女は大金持ちのある外国の老公爵のほかにはだれともつきあわないというわさが立った。その老公爵が彼女をできるだけ過去の生活から引き離そうとするのを、彼女の方でもかなり快くされるがままになっているらしいというわさであった。

このことについて私は次のように聞いている。

一八四二年の春、マルグリットは非常にからだが衰弱し、見る影もないまでにやつれたので、湯治がいいという医者の勧めもあってバニュールへ出かけた。

温泉場の湯治客の中にこの公爵の令嬢もまじっていたが、令嬢はマルグリットと病気が同じであるばかりでなく、姉妹かと思われるくらいに瓜二つの顔をしていた。しかし、うら若い公爵令嬢は肺結核の第三期になっていたので、マルグリットが着くと間もなく死んでしまった。

谁也摸不透茶花颜色变化的原因是什么,而我也无法解释其中的道理。在她常去的那几个剧院里,那些老观众和她的朋友们都像我一样注意到了这一现象。　除了茶花以外,从来没有人看见过她还带过别的花。因此,在她常去买花的巴尔戎夫人的花店里,有人替她取了一个外号,称她为茶花女,这个外号后来就这样给叫开了。　此外,就像所有生活在巴黎某一个圈子里的人一样,我知道玛格丽特曾经做过一些翩翩少年的情妇,她对此毫不隐讳,那些青年也以此为荣,说明情夫和情妇他们彼此都很满意。　然而,据说有一次从巴涅尔旅行回来以后,有几乎三年时间她就只跟一个外国老公爵一起过日子了。这位老公爵是个百万富翁,他想尽方法要玛格丽特跟过去的生活一刀两断。而且,看来她也甘心情愿地顺从了。　关于这件事别人是这样告诉我的:　一八四二年春天,玛格丽特身体非常虚弱,气色越来越不好,医生嘱咐她到温泉去疗养,她便到巴涅尔去了。　在巴涅尔的病人中间,有一位公爵的女儿,她不仅害着跟玛格丽特同样的病,而且长得跟玛格丽特一模一样,别人甚至会把她们看作是姐妹俩。不过公爵小姐的肺病已经到了第三期,玛格丽特来巴涅尔没几天,公爵小姐便离开了人间。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com